

4.1.4 箱根西麓の森林

(1) 低標高の落葉広葉樹林(コナラ林)

1) 植物

三島市内の山麓部から山地中腹にかけては、コナラ、クヌギなどのいわゆる雑木林がモザイク状に比較的広く見られます。このような樹林の周辺では、88科 246種の植物が確認されました。

高木層⁽¹⁰⁾には、コナラ、クヌギ、ヤマザクラ、イヌシデ、ヤマウルシ、リョウブ、エゴノキなどの落葉広葉樹が、低木層⁽¹²⁾には、ガマズミ、ヤブムラサキ、マルバウツギなどの落葉広葉樹と、ヒサカキ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹が混じります。林床は管理が行われている樹林では、コウヤボウキ、ノコンギクなどの草本植物⁽¹⁴⁾が見られますが、放置された樹林では、アズマネザサなどが繁茂しています。

雑木林はシイなど常緑広葉樹林が繰り返し伐採された後に発達しました。かつては薪(まき)や木炭を生産する林として利用されていましたが、現在ではあまり利用されなくなったため、放置される雑木林が増加しています。



春 2002/4/3



夏 2002/7/9



秋 2002/10/10



冬 2003/1/9

(谷田)

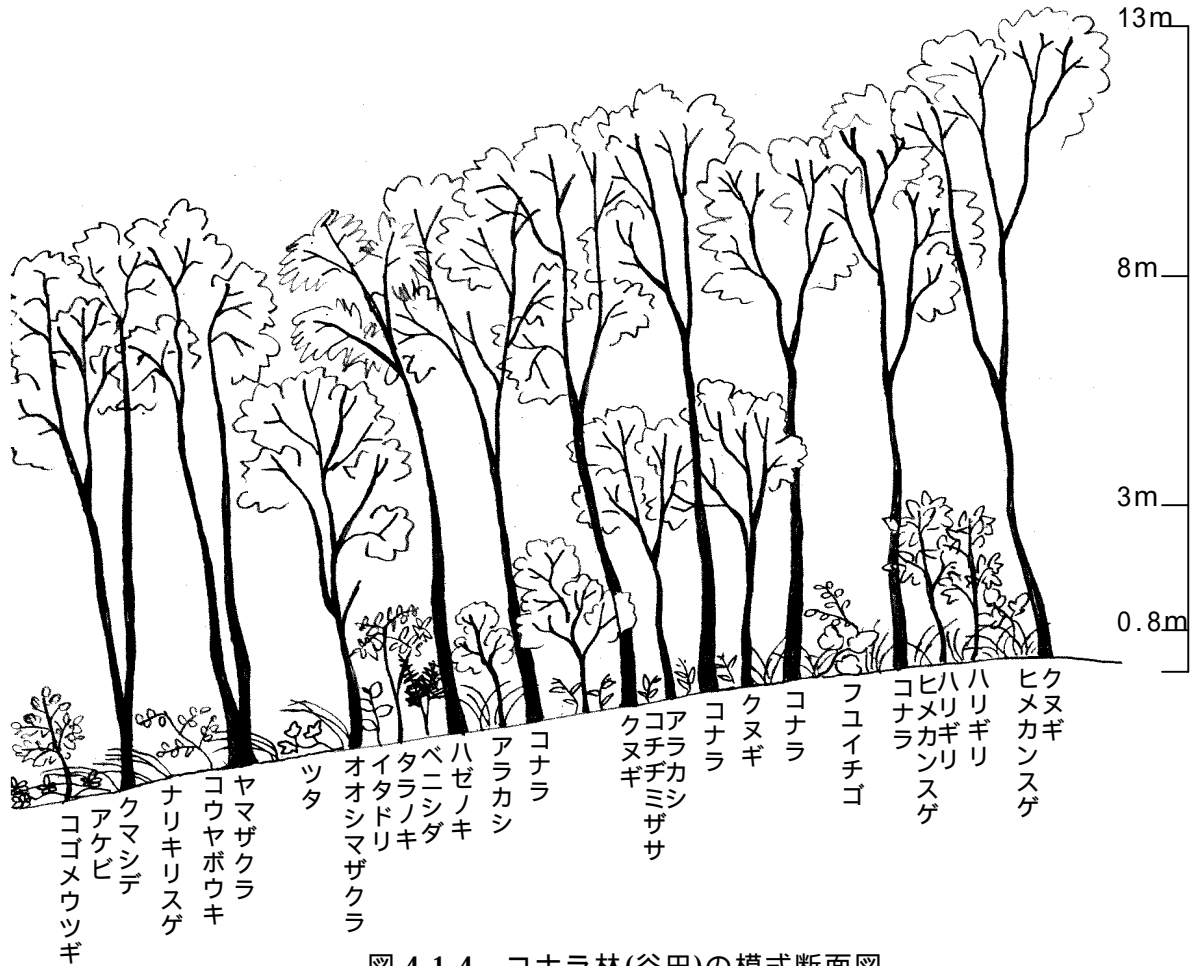


図 4-1-4 コナラ林(谷田)の模式断面図

コナラ(ブナ科)



高さ 15~20m 程の落葉高木で、北海道南部から九州に分布する雑木林の代表種となっています。伐採しても切り株から新芽を出すため、江戸時代後期より薪、木炭として使われてきました。現在では、主にシイタケを栽培する木(ほだ木)として利用されています。

【撮影：2002/4/3 北沢】

クヌギ(ブナ科)



高さ 15m 程の落葉高木で、コナラとともに雑木林の代表種となっています。生育地は、人里近い場所に限定されており、天然林では見ることはできません。幹は黒灰褐色で縦に深く切れ込み、コルク層が発達しています。材は、良質の木炭になる他、しいたけのほだ木として利用されています。

【撮影：2002/10/2 北沢】

エゴノキ(エゴノキ科)



丘陵から山地の平坦部、谷間の緩斜面に生育する高さ 7~15m 程の落葉高木です。5~6 月頃、新枝の先に白い花が垂れ下がってつき、秋になると褐色の堅い実をつけます。果皮にはエゴサポニンが含まれるため、昔は石けんの代用とした他、魚毒として魚とりにも用いられていました。

【撮影：2002/5/14 谷田】

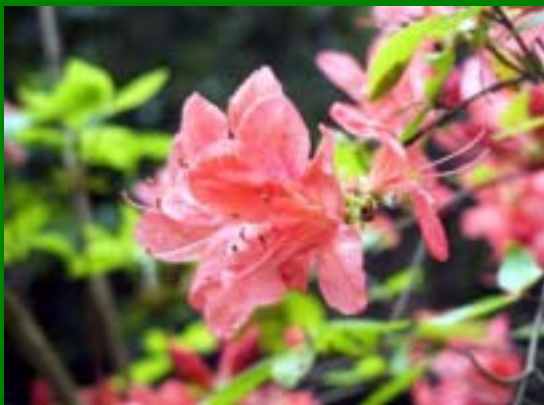
マルバウツギ(ユキノシタ科)



低地の二次林のやや乾いた林の中や林縁に生育する高さ 2m 程の落葉低木です。5~6 月頃、長さ 5cm 位の円錐花序⁽³³⁾を枝先に付け、白い花を咲かせます。ウツギより葉が丸い事から、この名が付けました。

【撮影：2002/4/19 谷田】

ヤマツツジ(ツツジ科)



低地から山地のやや乾燥した土地に生育する高さ 1.5~5m 程の半常緑低木です。4~5 月に朱色の花をたくさんつけます。春にも葉が出ますが、夏にも小さい葉を出し、この葉で冬を越します。

寿命が長く、庭園にもよく使われます。花の色や花の形に変異が多いので、園芸ツツジ類の原種にもなっています。

【撮影：2002/5/13 谷田】

ノコンギク(キク科)



山野に普通に見られ、日当たりのよい路傍やあぜにも生育する高さ 50~100cm 程の草本植物⁽¹⁴⁾です。野菊のひとつで、若葉は食用として利用されています。8~11 月頃に、直径 2.5cm 程の淡青紫色の花を咲かせます。

【撮影：2002/11/11 谷田】

2) 動物

低標高の落葉広葉樹林では、哺乳類 5 科 6 種、鳥類 22 科 40 種、は虫類 2 科 2 種、両生類 1 科 1 種、昆虫類 147 科 606 種が確認されました。

哺乳類

ヒミズ・ノウサギ・キツネなどが確認されました。ヒミズはモグラの仲間ですが、手あまり発達していないので、落ち葉のたまった地表の柔らかい層で主に生活しています。このような場所にはヒミズの餌となるミミズや昆虫類などが豊富なので、棲みやすい環境になっていると思われます。ノウサギやキツネは低地には見られず、低標高の落葉広葉樹林を含む山地の森林に生息しています。三島市の場合、低地の多くは市街地や水田が広がっていて、これらの種にとっては棲みにくい環境なのかもしれません。

鳥類

落葉広葉樹林の面積が狭いためか、南から渡って来て繁殖するキビタキなどの小鳥類は春の移動途中に見られたただけでした。主な種類は、コジュケイ・コゲラ・ヒヨドリ・シジュウカラ・メジロなど一年中生息する留鳥でしたが、冬には北方から渡ってくるシロハラ・アオジ・シメなどの冬鳥が加わり、多くの鳥が見られました。春にはフクロウの鳴き声を聞くことができました。

は虫類・両生類

は虫類はカナヘビとタカチホヘビが確認されています。カナヘビは林縁などの日当たりが良い場所によく見られます。タカチホヘビはコナラ林付近の道路上で確認されました。普段は土中にひそんでミミズなどを食べているので、人目につくヘビではありません。地表に出てくるのは夜で、雨の日の夜には道路にもよく出てきます。ほかにも多くのヘビがすんでいるはずですが、調査で出会うことはありませんでした。

両生類はアマガエルが確認されただけでした。しかし、山裾の水田では森林性のシュレーゲルアオガエルが確認されているので、その付近のコナラ林にもすんでいると思われます。

昆虫類

北沢から竹倉周辺に分布するコナラ・クヌギを中心とした落葉広葉樹林では、最も多くの昆虫類が確認されました。その理由としては、低標高の落葉広葉樹林には昆虫が餌などとして利用できる多くの植物が生育していることが考えられます。ここでは、クヌギの樹液にカナブン・カブトムシ・コクワガタなどのコウチュウ類、オオスズメバチ・コシロシタバ(蛾類)などが多く確認されました。夏にはクマゼミ・アブラゼミ・ニイニイゼミ・ミンミンゼミなどのセミ類の鳴き声が多く確認されました。夜間の調査では、コナラ・クヌギを食樹⁽³⁸⁾とするナミガタエダシャク・クチバスズメ・ホソバシャチホコ・スズキシヤチホコなどの蛾類が多く確認されました。また、近年分布を広げているミドリゲンバイウンカや、外来種のヨコヅナサシガメ・ラミーカミキリが確認されました。

ヒミズ



体の長さが 89 ~ 104mm、尾の長さが 27 ~ 38mm 程度の小型のモグラの仲間です。体の色は黒く光沢があります。ミミズ、昆虫類、クモ類、果実などを餌にしています。

【撮影：2002/2/28 谷田】

カナヘビ



体長は 16 ~ 22cm で、尾は長く体長の 2/3 ぐらいあります。日当たりの良い草原、ヤブなどにすんでいます。褐色で体にはツヤはありません。腹面は黄白色。尾は切れやすいですが、再びはえてきます。

【撮影：2002/5/29 竹倉】

ハラビロカマキリ



体長 50 ~ 70mm 程度で主に木の上で生活するカマキリです。名前のとおり、他のカマキリ類と比較すると太い体型をしています。成虫は秋に見られます。

【撮影：2002/9/25 竹倉】

ササキリ



体長 20mm 程度の小型のキリギリスの仲間です。山地森林の林の間にある草地でよく見られます。オスは羽をこすりあわせてジリジリと音を出します。8 ~ 10 月に見ることができます。

【撮影：2002/9/25 竹倉】